

2022 (R4) 年度の浜松市域の温室効果ガス排出状況について（速報値）

1 2022 (R4) 年度の温室効果ガス排出量

- 本市の2022年度の温室効果ガス排出量は、4,772千t-CO₂であり、基準年度(2013)比で14.2%の減少、前年度比で1.8%の減少でした。二酸化炭素は基準年度比で16.5%の減少に対し、二酸化炭素以外は基準年度比で22.4%の増加でした。なお、二酸化炭素以外の増加の要因は、温室効果ガス排出量全体の6.1%を占めるHFCsが46.5%増加していることがあげられます（この文章内の数値は、表中にありません。）。
- 森林等による二酸化炭素吸収を考慮すると、4,426千t-CO₂となり、基準年度比13.8%減少となります。
- 一方、全国における温室効果ガス排出量は、基準年度比19.3%減少でした。

表1 本市と全国の温室効果ガス排出量

(単位:【本市】千t-CO₂/年、【全国】百万t-CO₂)

		2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2022年度増減率 基準年度比	2022年度増減率 前年度比
本市	二酸化炭素	5,234	4,976	4,734	4,794	4,720	4,702	4,387	4,227	4,409	4,369	-16.5%	-0.9%
	(%)	(94.1%)	(93.4%)	(92.8%)	(92.5%)	(92.1%)	(91.8%)	(91.0%)	(90.5%)	(90.7%)	(91.6%)		
	二酸化炭素以外	329	352	366	389	404	418	434	441	452	403	+22.4%	-10.7%
	合計	5,564	5,328	5,099	5,184	5,124	5,120	4,820	4,669	4,861	4,772	-14.2%	-1.8%
全国	森林吸収による二酸化炭素吸収	-427	-427	-427	-416	-405	-392	-384	-372	-364	-345	-19.1%	-5.0%
	合計(森林等による二酸化炭素吸収を考慮)	5,137	4,901	4,672	4,768	4,719	4,728	4,437	4,297	4,497	4,426	-13.8%	-1.6%
	二酸化炭素	1,318	1,266	1,225	1,205	1,190	1,145	1,107	1,042	1,064	1,037	-21.3%	-2.5%
	(%)	(93.7%)	(93.3%)	(92.9%)	(92.7%)	(92.5%)	(92.2%)	(91.8%)	(91.3%)	(91.4%)	(91.3%)		
全国	二酸化炭素以外(三ふつ化窒素除く)	88	91	93	95	97	97	98	100	100	98	+11.6%	-1.6%
	合計	1,406	1,357	1,319	1,301	1,287	1,242	1,206	1,142	1,164	1,135	-19.3%	-2.5%
	森林吸収による二酸化炭素吸収	-	-60	-56	-55	-54	-52	-48	-46	-46	-43	-	-4.8%
	合計(森林等による二酸化炭素吸収を考慮)	1,406	1,297	1,262	1,246	1,233	1,190	1,158	1,096	1,118	1,092	-22.3%	-2.4%
全国に占める浜松市の割合 (森林による二酸化炭素吸収を考慮)		0.37%	0.38%	0.37%	0.38%	0.38%	0.40%	0.38%	0.39%	0.40%	0.41%	11.0%	+0.8%

※ 二酸化炭素以外：メタン、一酸化二窒素、代替フロン類

※ ()書き：当該年度における温室効果ガス別構成比

※ 端数処理の関係で、表内の合計値が一致しない場合や、パーセンテージが100%にならない場合がある。以下同様。

※ 全国の値は「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2022年度）確報値」を参照。

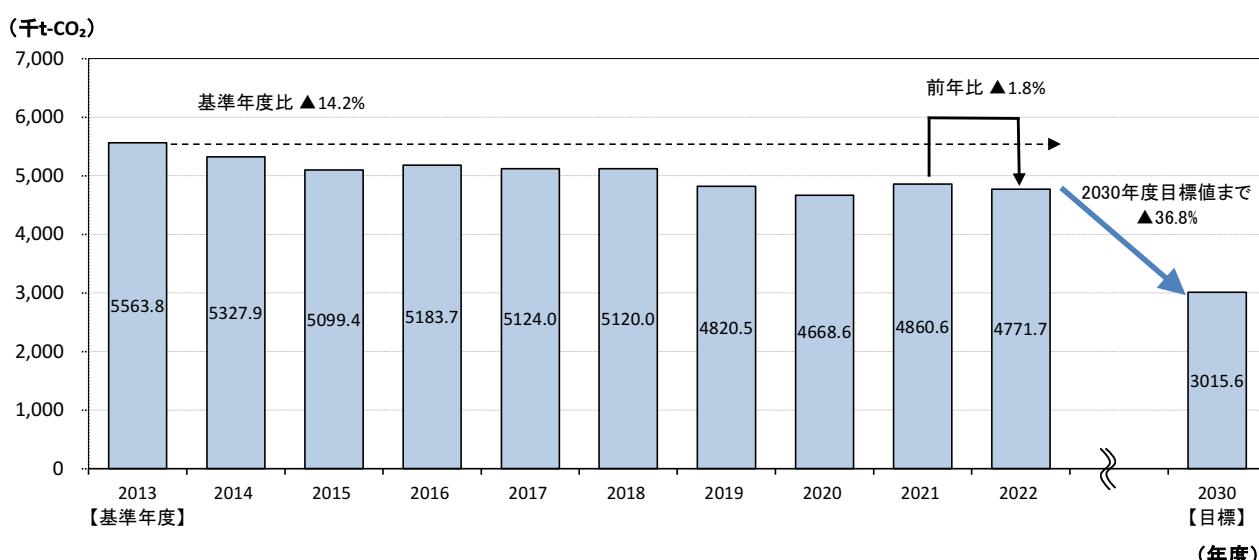


図1 本市の温室効果ガス排出量の推移

2022 (R4) 年度の二酸化炭素排出量 (速報値)

- 部門別二酸化炭素排出量は、基準年度比で産業部門 27.0%減少、運輸部門 13.1%減少、民生・家庭部門 13.6%減少、民生・業務部門 14.8%減少、廃棄物処理部門 11.5%増加でした。
- また、一人当たりの排出量は 5.5 t-CO₂/人で、基準年度比で 16.5%減少、前年度比で 0.9%減少でした。
- 全国では、浜松市よりも多い 8.3 t-CO₂/人で、基準年度比で 19.8%減少、前年度比で 2.1%減少でした。

表 2 部門別二酸化炭素排出量の推移

(単位:【本市】千 t-CO₂/年、【全国】百万 t-CO₂、【一人当たり】t-CO₂)

	2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2022年度増減率		
											基準年度比	前年度比	
本市	産業部門 (工場、農業、建設業等)	1,256 (24.0%)	1,188 (23.9%)	1,017 (21.5%)	1,027 (21.4%)	1,068 (22.6%)	1,038 (22.1%)	971 (22.1%)	953 (22.5%)	992 (22.5%)	918 (21.0%)	-27.0%	-7.5%
	運輸部門 (自動車、鉄道、船舶)	1,422 (27.2%)	1,339 (26.9%)	1,344 (28.4%)	1,350 (28.6%)	1,351 (29.4%)	1,385 (30.3%)	1,330 (29.0%)	1,226 (26.3%)	1,161 (28.3%)	1,235 (21.0%)	-13.1%	+6.4%
	民生・家庭部門 (住宅)	1,219 (23.3%)	1,170 (23.5%)	1,137 (24.0%)	1,184 (24.7%)	1,062 (22.5%)	1,060 (22.5%)	940 (21.4%)	987 (23.4%)	1,023 (23.2%)	1,054 (24.1%)	-13.6%	+3.0%
	民生・業務部門 (商業、事務所等)	1,248 (23.8%)	1,194 (24.0%)	1,138 (24.0%)	1,133 (23.6%)	1,137 (24.1%)	1,119 (23.8%)	1,050 (23.9%)	971 (23.0%)	1,135 (25.8%)	1,063 (24.3%)	-14.8%	-6.3%
	廃棄物処理部門 (ごみの焼却)	89 (1.7%)	85 (1.7%)	99 (2.1%)	101 (2.1%)	101 (2.1%)	100 (2.1%)	97 (2.2%)	90 (2.1%)	97 (2.2%)	99 (2.3%)	+11.5%	+1.6%
	二酸化炭素排出量合計	5,234	4,976	4,734	4,794	4,720	4,702	4,387	4,227	4,409	4,369	-16.5%	-0.9%
	1人当たり二酸化炭素排出量	6.6	6.3	6.0	6.0	5.9	5.9	5.5	5.3	5.6	5.5	-16.5%	-0.9%
全国	二酸化炭素排出量合計	1,318	1,266	1,225	1,205	1,190	1,145	1,107	1,042	1,064	1,037	-21.3%	-2.5%
	1人当たり二酸化炭素排出量	10.3	9.9	9.6	9.5	9.4	9.0	8.8	8.3	8.5	8.3	-19.8%	-2.1%

※ () 書き : 当該年度における部門別構成比

(1) 各部門における二酸化炭素排出量の状況

産業部門

全排出量の 21.0%を占める産業部門は、前年度比で 7.5%減少しました。産業部門の約 8 割を占める製造業が前年度比 7.7%減少したことから、部門全体の排出量が減少しました*。

運輸部門

全排出量の 28.3%を占める運輸部門は、前年度比で 6.4%増加しました。自動車保有台数は、全体で前年度比 0.1%増加とほぼ横ばいでしたが、内訳をみると、軽自動車は前年度よりわずかに増加、乗用車、バス等は減少しました*。燃料のうちガソリン使用量が前年度を大幅に上回ったことから、部門全体の排出量が増加しました*。

民生家庭部門

全排出量の 24.1%を占める民生・家庭部門は、前年度比で 3.0%増加しました。排出量の約 8 割を占める電力が前年度比で 5.2%増加し、更に灯油も増加したことから、部門全体の排出量が増加しました*。

民生業務部門

全排出量の 24.3%を占める民生・業務部門は、前年度比で 6.3%減少しました。排出量の約 7 割を占める電力が前年度比 14.3%減少し、更に軽油も減少したことから、部門全体の排出量が減少しました*。

廃棄物処理部門

全排出量の 2.3%を占める廃棄物処理部門は、前年度比で 1.6%増加しました。排出量の約 8 割を占める一般廃棄物の焼却量がわずかに減少したものの、混入している廃プラスチック類の割合が増加した(焼却される廃プラスチック類の量が増加した) ことから、部門全体の排出量が増加しました*。

注) ※ : この文章内の数値は、表中にはありません。